

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術科学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 	
<p>責任者:藤野明俊（放射線技術科学科長） 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>・ 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。2018年度には、超音波診断装置2台とαβ線測定用シンチレーションサーベイメータの更新を計画している。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 超音波診断装置2台とαβ線測定用シンチレーションサーベイメータの更新ができた</p> <p>・ 本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。</p> <p>① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 病院見学マニュアルを作成し、説明会を開催した</p> <p>② 3年4月時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全員無事に臨床実習指導施設が決定した</p> <p>③ 3年前期学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 患者接遇を中心に行った</p> <p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>実習ノートを点検した</p> <p>⑤ 臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義およびグループワークを行う。 臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 講義およびグループワークを行った 臨床実習報告会は8月に報告会を行った</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>・1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 面談を行ったが成果の上がない学生がいた</p> <p>・欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員(学科教員)と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教務課からの連絡、授業担当教員からの情報を担任教員および学科教員に報告し学生指導を行った</p> <p>・1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格(診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者)の取得を意識した講義を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生では第一種放射線取扱主任者試験を受ける学生はいなかった</p> <p>・ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ガイダンスで学生に説明を行った</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は70%。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国試合格率94.4%、入学者あたりの合格率は72.7%</p> <p>・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 授業では国試問題の解説を取り入れた</p> <p>・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。合格率をより向上させるための改善点として以下を計画する。</p> <p>① 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 指導するもできない学生がいた</p>

	<p>② 新傾向や応用問題への対応力を向上するため、年3回実施される業者模擬試験について、学生が受験するよう教育指導する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 経済的な理由等で参加者が伸びなかった</p> <p>この他、合格率の目標達成に向けた以下の教育指導を継続する。</p> <p>① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 開催した。</p> <p>② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 週一日、国試対策講義は勿論、10月11月に専門科目担当教員(11人)で55回の講義を開催した</p> <p>③ 年8回、学内模擬試験を実施する(学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する)。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 予定通り行った</p> <p>④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援(個人指導)を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行ったが効果の表れない学生もいた</p> <p>⑤ 模擬試験成績不振者への保護者への成績通知を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行った</p> <p>⑥ 過年度4年生等に対し、現役4年生が臨床実習のため学内不在期間に月一回の模擬試験(実力試験)を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 行ったが、受けに來ない学生もいた</p> <p>⑦ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習進捗状況を面談またはSUMS-POにより把握する。毎月開催する国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 自習室に居つかない学生がいた</p> <p>10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義(放射線科学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 予定通り行った</p>
--	--

第2－1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018-2020 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築への取り組み 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学あたり合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 	
<p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長） 分担者:太田伸生（管理栄養学専攻長）、三浦俊宏（管理栄養学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施するための準備に着手する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 管理栄養学専攻学生4年生による臨床検査学専攻3年生への栄養指導を行っている。6月より実行中である。 2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 両専攻合同のスポーツ大会を行った。 3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能とする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本年度より両専攻学生が、相互に他の専攻授業を聴講できるようにした。
2. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学年進行に応じた学生の学習に関するアウトカムを確認するためのアチーブメントテストを導入する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9月に3年生を対象に実施予定である。他の学年については順次導入を検討中。 2. 臨地実習のより有意義な実施に向けた支援を強化する。そのために、受け入れ施設とのより濃密な事前協議を図る一方、派遣学生の習熟度の事前評価と不足学生への教育補完を考慮する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

	<p>上記達成状況の具体的内容 受け入れ施設との事前協議は図られているが、習熟度の事前評価と不足学生への教育補完は上記アチーブメントテストの結果を参考に考慮する予定である。</p> <p>3. 実習試験の導入と拡大 2017年度に導入した、実習の評価法としてのレポートに加えて実習試験実施を継続拡大し、学生の自発的学習態度の涵養に努める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 導入が検討された生化学実験、基礎栄養学実習については達成された。</p> <p>4. 学科内に教務委員会を立ち上げ、関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学科内教務委員会を立ち上げた。</p>
<p>3. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>1. 学生の将来キャリアプランニングの充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招いて、モチベーション向上に繋がるような授業形式の懇話会を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 懇話会を実施した。</p> <p>2. 4年生以前の段階から順次、国家試験問題を供覧し、修学期間の最低達成目標に関して学生の自覚を促す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 3年次後期に国家試験過去問題に関連する問題を解かしている。</p> <p>3. 国家試験対策学習支援 国家試験対策として模擬試験を行っているが、成績不振者(約10名～15名)について補講を行い、また特に成績が不振の学生については、保護者、担任、専攻長、国家試験対策担当教員による面談を行って、問題点、改善点等指導する活動を継続する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 成績不振者の補講を行なった。保護者を含む三者面談を平成30年度に実施し効果があったので、今年度も継続することになっている。</p> <p>4. 早期導入教育 1年生底力教育の管理栄養学専攻分において、病院、福祉施設等での管理栄養士の仕事を見学し、向学心の高揚を目指す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 鈴鹿中央総合病院 および(株)ニュートリーに見学を実施した。</p> <p>5. リメディアル教育 近年の受験者数の減少から、今後入学者の学力レベル低下が予想される。多くの1年生学生に早期にリメディアル教育が必要と思われるが、e-learningも活用して、学生にリメディアル教育の参加を促し、出席状況、学修到達度を1年生担任教員が把握する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 入学直後に試験を行い、不振学生についてリメディアル教育を行っている。</p>

<p>4. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、入学者あたりの合格率は90%を目標とする。これを達成するため、2017年度より開始した4年生前期の総合演習Ⅱの国家試験対策演習への変更及び医療栄養学特別演習（4年通年）における国家試験対策を継続強化する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験合格を目指して4年生の指導を強化した。国家試験合格は100%を達成できなかったが、対入学者比率としては成績不振による留年/退学者を除外すれば目標をほぼクリアできた。</p> <p>2. 4年生に特化して進めていた国家試験対策を低学年の段階から開始する体制を整える。国家試験問題のうち既習範囲を3年生にも課して、自らの到達度を確認させ、さらに学生の自発的な国家試験学習を促し、また支援を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生にアチーブメントテストを実施予定（9月）である。</p>
---	---

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 	
<p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長／臨床検査学専攻長） 分担者:吉子健一（臨床検査学専攻教務委員） 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 管理栄養学専攻との合同演習授業の構築	<p>1. 学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム（NST）等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施するための準備に着手する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度実施に向けて検討・準備を行い、2019年5月より管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導演習を実施している。</p> <p>2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年秋に両専攻合同の球技大会が実施された。2019年度も実施予定。</p> <p>3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能とする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度より、管理栄養学専攻本の学生は臨床検査学専攻の授業（2年次開講の臨床検査専門科目）を、臨床検査学専攻の学生は管理栄養学専攻の授業（調理学、栄養教育論Ⅰ、公衆栄養学Ⅰ、給食経営管理論Ⅰ）を聴講可能とした。そして2019年度前期のガイダンスでアナウンスした。</p>
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実	<p>1. 各学年に、国家試験に関連する基本的事項を中にも、それまでに学習した内容を総合的に問う、アチーブメントテスト（学習達成度確認試験）を</p>

<p>と教育方法・教授方法の更なる改善</p>	<p>導入する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 試行的に3年生に限定し2019年度後期のアチーブメントテスト実施をアナウンスした。そして、2019年度前期のガイダンスで試験科目と範囲をアナウンスした。後期ガイダンス(2019年9月12日)に実施予定である。</p> <p>2. 第1期に引き継ぎ、IR推進室の分析報告に基づき、指導方法の改革・改善に向けた検討を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科内教務委員会等で2017年度の解析結果を基に、より有用な解析内容・方法について検討を行った。</p> <p>3. 第1期における検討・準備の下、本年度より実施される検体採取業務に関する講義・実習に関して、状況をモニタリングし検討を行う。 2019年度より新たに始まる再生医療技術学(3年次)、および2020年度より新たに始まる再生医療技術学実習(4年次)の実施に向けた教育内容や担当教員の具体的な検討を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 検体採取業務に関する講義・実習を実施した。その実績を基に、2019年度は各教員が担当科目に関して授業内容を改善している。 再生医療技術学の講義(3年次)に関しては、シラバスを完成させた。再生医療技術学実習(4年次)は、2020年度夏の実施に向けて、専門業者の協力を得てシラバス検討した。</p> <p>4. 前項の「1. 管理栄養学専攻との合同演習授業の構築」は、本項にも含まれる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度実施に向けて検討・準備を行い、2019年5月より管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に栄養指導演習を実施している。</p> <p>5. まだまだ病態に関する知識や意欲が乏しいので、第1期に引き継ぎ、前年度から始まった臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の実施方法の改善に向けて、授業評価を参考にして検討を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業評価を参考にして学会に参加前の講義で代講謝性疾患など各種病態について基礎知識を学ばせた後、学生から好評である学会(2018年度は、中部圏支部臨床検査学会)参加を実施し、数ヶ月後の臨床実習に向け、病態に関する知識を深めると共に病態を学ぶ意欲を高めた。</p> <p>6. 学科内に教務委員会を立ち上げ、関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年度より学科内教務委員会を立ち上げ、毎月1回会議を行った。2019年度も継続中。</p>
-------------------------	--

<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 第1期における検討・準備の下、1年前期の医療人底力実践（基礎I）での病院見学に加え、OB・OGとの意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 医療人底力実践（基礎I）において、鈴鹿中央総合病院の見学、並びに1・2期生のOG・OBとの意見交換を実施した。</p> <p>2. 木1の時間等を利用して、学内の教員や外部講師（各種現場で働く臨床検査技師など）による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について検討を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 以前行われていた臨床検査専攻のキャリアプラン形成論を参考に学科教務委員会で検討した。2019年度も引き続き検討中。</p> <p>3. 第1期に引き継ぎ、1～3年の後期終了時に行っている成績不振者に対する二者ないし三者面談で、IR推進室の分析報告を活用し目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 原級留置者及びそれに準ずる学生に対しては三者面談、その他の学生（成績不振者：再試験数の多い学生）等に対しては二者面談を行い学習方法の指導や支援を行った。</p> <p>4. 第1期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年度は中部圏支部臨床検査学会に3年生全員が参加し向学心を高めた。同時に、有志10名は学生フォーラムで発表を行い高い評価を得た。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率を100%に、入学者（進路変更を除く）あたりの合格率を90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p> <p>1. 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年度の現役受験者の合格率がこれまでより大きく落ち込んだことから、受験対策に関して大幅な改善が必要である。専攻内で2018年度対策についての振り返り及び今後の対応について検討を行った。各教科に共通する標準的かつ具体的な教育法について検討中。</p> <p>2. 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 荻津教授を中心に学科内教務委員会でも議論しながら、その構築と有効利用法について検討・試行している。</p>

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色 (理学療法学科)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018-2020 年度</p> <p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善</p> <p>2. 学習支援と向学心の高揚</p> <p>3. 合格率及び入学あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	
<p>責任者: 畠中泰彦 (理学療法学科長)</p> <p>分担者:</p> <p>事務局: 教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善</p>	<p>初年次、基礎専門科目(解剖学, 生理学, 運動学)の到達目標を明示し、定期的に到達度をチェック, 学生にフィードバックする。 2019年度に向け, e-learningの導入を検討する。 ドロップアウトが懸念される学生には, 個別指導と同時に保護者にも通知する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 解剖学のアプリケーションを導入し, 2019年度より解剖学実習で使用する。個別指導は継続中。</p> <p>指定規則改定に対応するカリキュラム変更を準備する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 変更、申請を終えた</p> <p>科目「ロボットリハビリテーション演習」の充実を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 福祉用、単関節に加え、腰用 HAL を導入した</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>1, 2年次に臨床見学, 障がい者スポーツイベント, 学会参加を通じ, 将来の職域, リハビリテーションへの理解を深めさせる。同時に学生自身の将来像の具体化, 動機付けを図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 すべてのプログラムを実施した</p> <p>上級生の実習見学, モデル参加を通じて, 基礎医学の重要性, 理学療法士の資質への理解を深めさせる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生全員の参加の下, 実施できた。</p>

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>国家試験合格率の目標値は90%、入学者あたりの合格率は80%とする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験合格率100%、入学者あたりの合格率は90%</p> <p>定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより、学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画、実行、振り返り、再計画の過程全てが不十分なため、全ての過程で助言、指導する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 すべてのプログラムを実施した</p> <p>近年、成績不良者以外にも国家試験で不合格者がみられる。極度の緊張のため、実力が発揮できないため、メンタルトレーニング指導を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 すべてのプログラムを実施した</p>
---	--

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018-2020 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 	
<p>責任者:佐々木信也（医療福祉学科長／医療福祉学専攻長） 分担者: 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善	<p>医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカーとして活動する人材を育成するため以下のことに取り組む。</p> <p>①病気や障害を抱える本人や家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解し PDCA サイクルに即して実践できるように、相談援助に関わる講義科目と演習科目の連携を強化し、知識と技術の一体化を図る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、さらに精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ、Ⅱをとおして、インテークからアセスメント、介入とモニタリングの方法を学修し、ロールプレイや事例検討によって、社会福祉学の知識・技術の一体化を図った。</p> <p>②地域社会とのつながりを重視し、鈴鹿市人権センター、BBS 会、てんかん協会やパーキンソン病等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、福祉ニーズを肌で感じ取るとともに、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワークの展開が学べるようにする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市人権センター、BBS 会、日本てんかん協会三重県支部、日本パーキンソン病友の会三重県支部等の当事者団体、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設等への定期的な行事に数多く参加し、そこで出会った当事者の方々の生活上のニーズや社会における課題をとおして専門職に必要な福祉マインドを感じる事ができた。また、社会で活躍する卒業生の先輩がともに参加していたため、自らの将来の専門職像を築き上げる機会となった。また、相談援助実習、精神保健福祉援助実習、医療ソーシャルワーク実習をとおして高齢者・障害者（身体・知的・精神）・児童・患者（難病・ガン等）のアセスメントや個別支援計画の立案を経験することができた。</p>

	<p>③ロールプレイや事例検討などを多く取り入れ、アセスメント力とコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての実践力を高めるため、わかりやすい関係資料を学生の到達度に応じて提示するなど、きめ細やかな対応をしていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業におけるテキスト、参考書、資料から現実的に考えられる事例を数多く取り上げ、全景にとらわれることなく、むしろ当事者本人にとっての背景に焦点を当てたアセスメント力を涵養することを目的に繰り返し指導を行った。なお、授業資料は各教員が学生にとって視覚的にも理解しやすく工夫を凝らして作成したものを使用した。</p> <p>④ゼミ単位でアクティブラーニングによる社会貢献活動に取り組み、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各ゼミ担当教員が学生に対して指導を行った上で、人権センターでのボランティア活動や矯正施設等の社会見学、さらには高齢者施設でのレク担当、当事者団体行事におけるレク担当など、アクティブラーニングによる社会貢献活動を積極的に行った。</p> <p>⑤障害学生に対する教育環境の改善に取り組み、共生社会の実現に貢献するソーシャルワーカーの養成を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の中には、障害を身に負っている者も存在する。その学生が、意義深いキャンパス生活を送ることができるように、講義においては合理的配慮に関する授業を各教員が行い、「ひとの悲しみや生きづらさ」に共感し協働することができる専門職の育成を心がけた。学生は、互いに支援する内容を模索しながら共生社会の本来のあり方に気がつく経験をすることができた。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学生の学力の差を縮め、理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <p>①国家資格の指定科目に関して、講義科目についてはテキストを用いた予習を推奨し、演習科目については振り返りの復習を強化する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験科目の予習、復習について、担当教員はそれぞれ課題を出して学生に取り組ませている。8~9割の学生は課題に真面目に取り組むが、国家試験対策にやや出遅れる傾向を示す学生が存在するため、指導に工夫を加えることが課題として残った。</p> <p>②先輩や社会人で実際にソーシャルワーカーとして勤務している人の話や、施設や社会福祉協議会などでの相談援助実習やフィールドワークを通して、福祉現場やソーシャルワークへの興味関心を引き出し、早くから対人援助職のイメージ化を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年次から4年次まで、多くの科目で卒業生ほかソーシャルワークの現場に勤務する職員を特別講師として採用し、また実際のフィールドに出向いて現地で指導を受ける取り組みを継続している。そのことにより、多くの学生が将来の進路を具体的に描くことができるようになった。</p> <p>③専門職団体（社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会等）との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していく実際のソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員と県内専門職団体との関係は極めて深く良好であり、交流も活発である。各団</p>

	<p>体から、研修や記念講演の講師依頼を教員が受ける機会が多く、学生も専門職団体の学生会員として登録をして、専門職団体が主催する研修会に参加している。さらに、教員の引率のもと3、4年生は県内外の医療機関（一般病院・精神科病院）への見学研修を年に数回行うことをとおして専門職の役割と患者・家族のおかれている現状を学んでいる。</p> <p>④地域の貧困やネグレクト、権利侵害や虐待に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全教員が、貧困、ネグレクト、権利侵害、虐待などの社会福祉のテーマを授業や演習で取り上げており、人権感覚の鋭敏さは培われている。ただ、地域内でネットワーク化を築く体験をさせる課題は難しい面があるとともに今後の課題でもある。</p> <p>⑤ICT の活用や学生との個別面談により、学習方法の相談にのり就学上の課題解決に取り組むとともに、成績不良者については学習意欲の向上にむけて保護者との連携を強化する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ICT の活用、学生との個別面談によって、学習方法についての学生のニーズには応えることができている。成績が芳しくない学生や学習意欲の乏しい学生の保護者との連絡は密にとれているが、その改善を図るには工夫を必要とする。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>本学科卒業の第1期生から10期生までの10年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は57.4%（全国27.0%）、精神保健福祉士は本学79.9%（全国60.8%）であり、卒業者531名のうち卒業時点での社会福祉士合格者は189名（35.6%）、精神保健福祉士合格者は73名（13.7%）となっており、全国的にも高水準の合格率となっている。今後もこの水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <p>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を60%、精神保健福祉士合格率の目標値を80%とする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生の時点から受験直前に至るまでの間、15回の模擬試験を通して学習状況の把握を行い、それにより合格可能性を高めるかかわりを国家試験対策委員及びゼミ担任より個別に関わることで、目標達成を実現した。</p> <p>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4年生の4月時点での模試直後より個別面談を実施し、就職や進路希望と併せて国家試験受験希望の有無を確認したうえで、進路意向に応じて受験希望学生に対しては、4月以後の受験に向けた勉強方法や日常生活リズム等の指導を行った。以後、可否可能性の分析結果を基に必要に応じて個別に面接を実施し、最終的な進路確認と国家試験受験の最終意思確認を行った。</p> <p>③全国レベルの模擬試験5回と学内での模擬試験4回を3年次から行ない、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の確認に活かす。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年次より、模擬試験結果をもとに全般的な解説を国家試験対策の授業内で行った。合格可能性の高低に応じて、ゼミ担任や国家試験対策委員から必要に応じて個別に状況確認と学習指導を行った。</p> <p>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーに</p>

	<p>よる補足講座を4年次に実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 「学内教員全員で国家試験対策講座を分担」は行えた。「東京アカデミーによる補足講座」については、4年次に実施は出来たものの、受講人数に寡少化の関係で受講料高騰を伴うこともあり、「夏季と受験直前」の集中講義型での実施にならざるを得なかった。それでも受講学生からは「学習効果があった」旨の声は聴くことができた。</p> <p>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲のない者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 対象学生は1名であったが、ゼミ担任教員より数回保護者を交えて、面談・電話連絡を通して協議を行った。(結果としては保護者の意向で受験したが、想定通り結果は不合格であった。)</p> <p>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず呼びかけていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ゼミ担任・有志教員で個別に「塾」形式の対応を実施し、「過去問題や教員作成の想定問題」への取り組みを実施し、直接指導またはEメールやSNS等の通信手段を通じた質疑応答による学習支援対応を図った。</p>
--	--

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1 学部教育と大学院教育の連結。特に学部教育について</p> <p>2. 学部教員と大学院教育の連結。特に大学院教育について</p>	
<p>責任者: 佐々木信也（医療福祉学科長） 分担者: 今井院弍（臨床心理学専攻長） 事務局: 教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 学部教育と大学院教育の連結。特に学部教育について</p>	<p>公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻は、大学院生に、大学院修了時における大学院生の姿を明確にする必要があります。それには、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。</p> <p>まず学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。</p> <p>以上のことについて、本学ではどの程度まで理解させ、実践させるのかについて、専攻内の教員間で確認します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) ●ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>公認心理師養成カリキュラムを改正し、3年生には臨床心理実践演習、4年生には2コマ続きの臨床心理学演習の科目を設置しています。さらに4年生のコミュニティー心理学の内容をより実践的なものにしました。その結果、学部段階最終学年の4年生における講義毎の小レポート(臨床心理学演習、コミュニティー心理学)によると、学生たちの実践的な学びと理解力が格段に増していることが伺えます。</p>
<p>2. 学部教員と大学院教育の連結。特に大学院教育について。</p>	<p>前述したことは、大学院修了時における大学院生の姿を明確にする必要があります。</p> <p>現在、大学院生はこころの相談室において、教員・カウンセラーによる具体的な指導のもとで、臨床実践を学び始めました。</p> <p>大学院修了時に、院生がどこまで成長するのかについて検討します。</p> <p>達成(100%) ●ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>臨床心理学専門教員(昨年度5名、今年度7名)によるこころの相談センターカウンセリングを大学院生に陪席させてカウンセリングの実際を生で見せて、その上で子どもを大学生がプレイセラピーをし、教員はその親のカウンセリングを実施しています。このことが好結果を産み、修士2年生の実践能力の向上には驚くばかりです。教員によるカウンセリング場面を院生に見せて、その上で教員と大学生がクライアント親子を分担して支援し、それをもとにした指導(スーパービジョン)を行う訓練システムの充実は他大学には見られないものです。この訓練システムを行うには、教員による多大な時間とエネルギーが必要です。現在120校を超える公認心理師・臨床心理士養成大学は120校を超えていますが、他のどこの大学院も実施できていないと考えられます。</p>

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p> <p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> <p>3. 各資格試験の合格率及び入学あたり合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	
<p>責任者:山本晃久（鍼灸サイエンス学科長）</p> <p>分担者:高木久代、西村 甲、浦田 繁、廖 世新、鈴木 聡、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健</p> <p>事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1 キャリア教育の充実のため、推進体制を構築。</p> <p>①専門教育のため新設した「鍼灸への誘い」の時間数を増加し、鍼灸師の職業観や将来像の涵養を目標として教授する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鍼灸師および医師教員全員で担当した。鍼灸師となるあるいは東洋医学をすることになったきっかけや経緯を紹介しながら、伝統医学・東洋医学・スポーツ・美容・中医師・漢方・統合医療・海外の鍼灸・薬膳・留学などのテーマに基づき、歴史・現状・将来像について解説した。</p> <p>②キャリア教育講演を年1回開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業生1期の鈴木かおり先生、山形由記先生、4期の小川新平先生、石山良平先生を迎えて、5月に研修会を実施した。開業・勤務者・スポーツそれぞれの体験談を講演してもらい、有意義なキャリア研修会となった。</p> <p>③キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生の「鍼灸への誘い」において、キャリアデザインについて解説し、学生に設計させて発表会を実施した。</p> <p>2 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。</p> <p>①桜の森白子ホーム。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年生を対象に、平成30年10月19日～12月21日の期間中8回(2名1組)実施した。施設担当者の王桂鳳氏(本学科卒業生:鍼灸師)の業務内容を見学、介護福祉施設の概要や勤務する鍼灸師の業務内容・役割を学修した。</p> <p>②三重大学医学部附属病院麻酔科(統合医療・鍼灸外来)。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 今年度は、4年生8名に対して平成30年6月25日、7月2日、3日の3日間実施した。三重大学病院の概要と病院内における鍼灸の役割、受付から鍼灸治療受診までの流、鍼灸外来治療の実際について見学学習を行った。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>1 個人面談 担任による反復した面談を実施し、常に学習状態、生活状況などの情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。成績不良者に対する学習改善だけでなく、自主性や向上心を持てるように手厚い指導を継続する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から実施。反復して面談を行った。</p> <p>2 意欲向上・交流促進のため、レクリエーションを企画 球技大会、取穴大会（ツボの位置や暗唱を競い合う）を実施。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7月に球技大会、10月に取穴大会を実施。大変盛り上がり、SNSにてその状況を発信した。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 目標 合格率 100% 入学者あたりの合格率 80%を目標とする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 受験者合格率は、はり師 96%、きゅう師 100%であったが、入学者あたりの合格率は 71%と目標には達しなかった。</p> <p>2 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。 ①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試関連科目の担当教員は、出題傾向を意識した授業を心がけているが、危機感の持続ができる学生、そうでない学生、様々であった。</p> <p>②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評価する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 比率や形式については各教員に任せている。該当科目はこの内容で評価できている。</p> <p>③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生、4年生の対策授業で実施。さらに4年生において個別対応で口頭試問を繰り返し実施した。</p> <p>④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>4年生を対象に実施。反復学習の習慣に効果的であった。</p> <p>⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組んでいく。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>定期試験後や補習終了後のみならず、授業態度・修学状況などの情報を得て、随時実施した。</p>
--	--

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</p> <p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> <p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	
<p>責任者:野原敦（臨床工学科長） 分担者: 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>①学科内教育・教務委員を選任し、教育・教務業務の強化を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科内教育・教務委員会が発足し、稼働した。</p> <p>②2017年度から開講した4年前期・後期に開講される学科全教員による特別演習科目の充実を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科全教員により、前期2科目34コマ、後期2科目30コマを国家試験対策として割り当て実施した。</p> <p>③学修サポートシステムの教員活用を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新学修支援システムの導入に向け、活用方法の検討を進めた。</p> <p>④臨床実習前に院内コミュニケーションや実習報告書作成、実習時の日常生活について補講を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床実習前に臨床実習対策及び学生1名に対して教員2名で個別面談を行い、臨床実習に対する指導また学生の意見を聞く機会を設けた。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>①医療現場や企業で活躍する本学科卒業生による現場経験と資格取得やその学習法についてのプレゼンテーションを行い、学生の将来像構築とモチベーションの向上を図る。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生（加えて4年生の希望者）を対象に2名の卒業生による特別講演を実施した。</p> <p>②GPAに基づき学習指導計画を図る。</p>

	<p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ガイダンス時にGPAについて周知し、4年生についてはクラス別教育の際の編成に利用した。</p> <p>③臨床実習（期間中を含む）に向けて、学習およびメンタル面のサポートを行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 臨床実習開始前に、臨床工学技士実経験者を中心に面談を実施し、実習前の学習状況、実習意欲確認、実習中へ不安などの聞き取りを行った。さらに、臨床実習中の1週目4週目に面談を行い、実習中に困った点を聞き取った。</p> <p>④ボランティア活動情報を提供する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 ガイダンスと講義中にボランティア活動について説明を行い、研究厚生棟4F 掲示板に活動情報を掲示し、ボランティアセンターに未登録の学生にも情報を閲覧可能とした。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として90%を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新卒合格率97.6%で、新卒+既卒で91.1%であった。</p> <p>②合格ラインへの到達に向け、国家試験対策補講出席を促し、頻出問題のポイントを指導し、必須基本問題を繰り返し行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学科教員全員が担当分野の出題傾向を把握して作成した国試ハンドブックを使用し補講に取り組んだ。</p> <p>③国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国家試験サポートソフトウェアを更新・最新版とした。教員の活用は20%程度にとどまっており、今後さらに活用を推進する。</p> <p>④国家試験全国統一模擬試験の3年次からの受験を促し、早期より国家試験への意識を高める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学科3年38名/40名が受験をした。早期より国家試験に対する意識を高めることができ、学生の国家試験に対する知識の理解度を把握することができた。</p>
<p>4. 学生確保の取り組み</p>	<p>①オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学臨床工学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 開催された全てのオープンキャンパスで本学臨床工学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行った。</p>

	<p>②高校への出張授業や大学紹介イベントへの参加をすすめる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大垣西高校やセントヨゼフ高校での授業を行った。</p> <p>③臨床工学技士紹介イベントへの大学学科紹介ブースでの参加をすすめる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 小・中・高校生対象の臨床工学技士を紹介するイベントにおいて、臨床工学技士養成校として参加をして、臨床工学技士及び本学の紹介をおこなった。</p>
--	--

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12 : 各学科教育の特色 (医用情報工学科)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018-2020 年度</p> <p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 2. 学習支援と向学心の高揚 3. 合格率及び入学あたり合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	
<p>責任者: 山本皓二 (医用情報工学科長) 分担者: 事務局: 教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1. 入学後の早い段階で個々の学生の特徴を把握し、その情報を全教員で共有することにより2年次以降に始まる個々の学生の個性を伸ばす少人数グループ教育へと繋げる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 個性を伸ばす少人数教育は1年次後期から2年次の前期・後期、そして3年次の前期・後期に行った。</p> <p>2. 卒業生などの外部講師による講演、上位学年による各種の成果発表会への下位学年の参加など、自分の将来についての具体像を学生に気付かせる機会をさらに充実させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 底力教育の学科枠、ならびに、2年生医療情報セミナーⅡなどで外部講師、卒業生による講演や上位学年との交流を行った。また、3年生による病院実習報告会の内容を2年生に聞かせるなどの企画を実現させた。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>1. 少人数グループ教育を通じてどんなことでも気軽に相談できる教師と学生間の相互信頼関係を築く。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 この項を数値化するのは難しいが、次の事項の追加説明にあるように教師と学生との信頼関係は醸成されたと考えている。</p> <p>2. 個々の学生には学生の特質に合わせた目標を設定し、その目標に対する行動計画を立てさせる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年生医療情報セミナーⅠ・Ⅱは、この目的のために設計した少人数でのグループワークを取り入れた科目である。この科目では、学生が自分の強み・弱みを色々な手法を使って客観的に測定し、ラダーチャートとして提示される。学生はその結果を参考にしながら行動計画を立てることを行っている。</p>

	<p>3. 学生が作成した行動計画が計画倒れとならないような企画を工夫する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 個々の学生のその後に関してはフォローアップを実行しているが、半ば中途である。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 医用情報工学科が対象とする資格試験は種類が多く、分野也多岐にわたる。資格に関して、学生全員が必ず一つは自分に適した資格を取得した状態で卒業することを学科としての目標としている。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 診療情報管理士の資格試験の受験者数は増加傾向にあるが、2018年度の合格率は例年とほぼ同じであった。その他の資格の取得率は全体の約85%であった。</p> <p>2. 分野が多岐にわたることを受けて、学科として次の教育指導の戦術を講じている。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 戦術は講じ、実行中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、入学後の早い段階で個々の学生の特徴を把握することで教員側の意識を発揚させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 問題となりそうな学生については学科で議論し、共通認識を得ることは行った上で、対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次に授業の一環として学生に自身の強み、弱みを把握させることを試み、より適した少人数教育グループへと導く。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 2年生医療情報セミナーⅠ・Ⅱ科目の中で実行し、一定の成果が出ている。</p>

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野 12:各学科教育の特色(薬学科)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善 2.学生支援体制を強化する 3.研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める 	
<p>責任者:佐藤英介(薬学科長) 分担者:山本秀孝(学生部委員会)、飯田靖彦(教務部委員会)、田口博明(国試委員会) 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善と国試合格率の改善	<p>低学年から高学年までの学部学生に対する教育体制を充実することにより、個々の学生の学力を向上させ、薬剤師国家試験の高い合格率を目指す。</p> <p>・教育の充実のため、薬学教育センターを設置し、必要な教員の配置を行い、リメディアル教育の実施や成績不振学生への支援を強化して、薬剤師国家試験合格へとつなげる。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度は薬学教育センターの専任教員を公募し、選考の結果、2019年4月より専任教員が配属されることとなった。2019年度から1年生のリメディアルと6年生の薬学特別演習の補習を行う予定にしている。今後、これらを強化していき薬剤師国家試験合格につなげる予定である。</p> <p>・教務部委員会において現行カリキュラムを見直して、改善する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度を通して薬学部の教務部委員会でカリキュラムの見直しをしており2019年の夏には原案を策定する予定となっている。2020年入学生からの実施を目指している。</p> <p>・薬剤師国家試験の合格基準点が見直され、合格点の変動することから、目標合格率等を絶対値として示すのは困難である。従って、対受験者合格率は全国私大平均を超えること、対入学者合格率はそれに近づくことを目標とする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度は、卒業生57名のうち53名(93%の合格率)が合格した。私立大学の平均は85%であり、目標を達成することができた。</p>
2. 学生支援体制を強化する	<p>学習活動支援の充実</p> <p>・新設する薬学教育センターによる、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を行う。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度は薬学教育センターの専任教員を公募し、選考の結果、2019年4月より専任教員が配属されることとなった。</p>

	<p>・リメディアル教育の実施:新入学生に対する、入学時確認試験成績不振科目(化学、物理、生物)について医療人底力教育センターと協力してe-ラーニングを導入する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2018年度は化学について薬学部の専任教員によりリメディアルを行い、生物、物理、数学については医療人底力教育センターでリメディアルを行った。E-ラーニングについては、今後行う予定。2019年からは化学と生物について薬学部専任教員でリメディアルを行う予定。</p> <p>・学習環境の整備:自習室の開放とオフィスアワーの設定を推進する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 セミナー室の解放とオフィスアワーの設定を行った。</p> <p>学生の学習意欲向上への取組</p> <p>・オリエンテーションの充実:新入生、在校生オリエンテーションを行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 従来通り、前期、後期に各学年でおこなった。</p> <p>・担任制度の充実:担任面談を定期的に行う。また、担任を介した学生および保護者からの意見集約を行う) <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 担任面談を定期的に行った。秋の保護者会では、3年生の成績の振るわない学生(GPA2.0未満)の保護者について面談をおこなった。</p> <p>・学生主体によるイベント開催への支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新入生歓迎会、学生交流会を年に数回開催しており、それらを学生主体に行った。</p> <p>学生生活支援を拡充させる</p> <p>・健康支援(定期健康診断)、経済的支援(奨学金の紹介)、生活環境の整備(学生生活調査を利用する)を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 随時行っている。</p> <p>就職支援活動の充実</p> <p>・インターシップの紹介、就職ガイダンス、企業説明会、などを開催し、就職支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 随時行っている。</p>
--	--

<p>3.研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・『私立大学研究ブランディング事業』について、引き続き採択を目指し申請する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年に申請したが、採用とはならなかった。文部科学省の事業そのものは2018年で終了した。</p> <p>・科学研究費助成事業に継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み、その成果を社会に還元するサイクルを有効に機能させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学部の科研費の申請率は約90%に近く、ほとんどの教職員が科研費を申請している。</p> <p>・大学ホームページ、フェイスブックに研究に関する情報発信をし、さらに三重県の企業との連携構築を行い、より多くの外部資金が獲得できるようにする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 定期的にフェイスブックでの情報発信をおこなっており、閲覧数もかなりの数となっている。</p>
--------------------------------------	--

第2-1期の活動計画の達成状況

重点分野12：各学科教育の特色（看護学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法等の改善 2. 将来の専門職者としての向学心の育成 3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実 	
<p>責任者:杉本陽子（看護学科長） 分担者:國分真佐代（教務委員長）、郷良淳子（学生委員長） 事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法等の改善	<p>①三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保し、地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <p>◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>県内を網羅し、本学部の教育目標・実習目的に照らし合わせて適切な実習施設を確保し、学生の学修状況に合わせた実習指導を実習施設・指導者と連携しながら実施した。3月に「臨地実習等連絡調整会議」を開催し、実習施設の関係者が一堂に会して課題や方向性を共有する場とし、次年度のよりよい教育につなげる機会とした。</p> <p>②これまでの4年間の教育の課題を明らかにし、カリキュラム改正に取り組む。</p> <p>◆2020年度入学生適用の新カリキュラムを2018年度中に策定する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現行カリキュラムの評価については学部開設2年目から始めており、本年度はその評価を踏まえて新カリキュラムを策定した。2019年度は三重県および文部科学省に申請するとともに、新カリキュラムの速やかな運用に向けて、具体的な準備を行う予定である。</p> <p>③助産師課程の開設を検討し、三重県における助産師の育成に貢献する。</p> <p>◆2020年度新カリキュラムの中に助産師課程教育科目を開講することを検討する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>国内・県内の助産師課程教育状況、在校生の意向や将来像等を分析して、学部教育内で助産師課程教育を行うことが望ましいと考えたが、加えて大学専攻科、大学別科の助産師課程の場合の学生応募状況・教員配置・カリキュラム・時間割などの利点と課題を検討し、大学本部と協議した。設置の可否も含めて今後の方向性は、大学本部で検討されることとなった。</p>

<p>2. 将来の専門職者としての向学心の育成</p>	<p>①1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。</p> <p>◆2018年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて企画する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生は、エキスパートの看護師活動を知るプログラムに関心が高く、中でも災害看護に関心を持つ学生が多かった。また、その思いを実現するためには、まずは1科目ずつ学修を積み上げていくことが重要であるという先輩学生のアドバイスを評価していた。2019年度から各看護学が2年ずつ持ち回りで学科プログラムを企画・担当することとし、看護学科教員全体へのプログラムの周知・参画を図ることにした。</p> <p>②初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。</p> <p>◆臨地実習直前のマナー講座を1-3年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 マナー講座は計画通り1-2年生180分、3年生は90分実施し、就職ガイダンスでもマナーを取り入れた。講座の実施時期の再考は必要であったが、概ね看護学生の実習態度としてのあいさつ等ふさわしい行動をとることにつなげることができた。</p> <p>③在校生の上級生・下級生の交流の機会をもち、クラスや在校生の一体感・連帯感を育むとともに、4年間の学修について予測性をもって進めることができるようにする。</p> <p>◆2018年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて、1年次と4年次が交流する企画を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 各看護学ゼミナールから1名ずつ選出された4年生に、底力学科プログラムに参加してもらい交流する場とした。1年生は先輩学生と接し、アドバイスを受けることで学習方法など具体的なイメージが持てるようになったので、次年度以降も続けていく予定である。</p> <p>◆2018年度後期ガイダンス終了後に「3・4年生臨地実習等情報交換会」を企画し、3年生と4年生が交流する機会をつくる。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 3年生は4年生から実習体験を直接聞くことで実習イメージや学び方を理解していた。4年生は実習の学びの振り返りにつながったという反応があった。教員からは4年生の成長を感じることができ、次年度には情報交換会を学生主体で進行することとし、1・2年生の参加も計画していく予定である。</p>
<p>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実</p>	<p>①1年次から4年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。</p> <p>◆2018年度1年生は9回の解剖生理学の学修会、2年生は9回の病態治療の学修会、3年生は10回の自己学修会と11回の学修会、4年生は約50回のセミナーとハイリスクグループへの16回のセミナーを実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 上記の回数を計画通り実施し、出席率も高かった。</p> <p>◆2018年度外部講師によるセミナーを1年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の習得と学修の促進を図るとともに、成績不振</p>

	<p>者への対応を低学年から行う。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>セミナーは計画的に実施でき、学生の満足度も高かった。しかし、成績不振者は欠席しがちであったので、それらの学生の成績向上の成果にはつながらなかった。</p> <p>◆4 年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、10 月以降にハイリスクグループへの学修支援を強化する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>昨年よりも合格率を上げることができ、また全国平均よりも高い合格率であった。本学新卒 98.86% (全国 94.7%)。国家試験対策の観点からのハイリスク学生のうち 1 名が不合格であった。</p> <p>②国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、合格率を向上させる。</p> <p>◆2018 年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>保健師合格率は 100%ではなかったが、全国平均より高かった。本学新卒 91.30%(全国 88.1%)。</p> <p>◆2018 年度保健師国家試験模試を段階的・定期的実施し、出題の 50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>予定回数は実施ができ、学生からの満足度も高かった。</p> <p>③学科の対策だけでなく、学生の自己学習時間や場所の確保等、環境整備をする。</p> <p>◆2018 年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>臨地実習スケジュールの空き週を活用して、実習グループ単位で自己学修時間の確保をしたが、学生の参加態度や学修の動機付けに個人差があった。</p> <p>◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>セミナー欠席の学生についてや模試結果を担当教員にすみやかに連絡した。また 4 年生のハイリスク学生への学修指導は外部講師と連携して行ったが、下級生の意識付けや 4 年生国試直前のハイリスク学生への対応には課題が残った。教務委員会としては、前期・後期成績結果発表前後に GPA 2.0 未満学生や、休学・原級留置等の学生には学生担当教員・学年担当教員・教務委員長など複数で学生・保護者との 3 者面談を行って学修指導を実施しており、今後も継続していく予定である。</p> <p>◆自己学修スペースの学修環境を整える。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>4 年生の自己学修スペースとして 12 月からゼミ室を確保し、1 月には土・日曜日に教室開放を行い、教員 1 名が監督として待機して、安全管理も含めて学修環境を整備した。</p>
--	--